

倉 敷 天 文 臺

倉敷天文臺主事 水 野 千 里

緒 言

倉敷天文臺創立記念式を挙げたのは、去る大正十五年十一月二十一日で、本年は二週年に相當するから、十一月二十七日山本博士を迎へ、縣下知名の士を招待して、同日午後三時、第二回創立記念式が挙げられ、原名譽臺長が開會の辭並びに希望を述べ、水野主事は事業の報告をなし、それに引續いて山本博士は「月食の話」の題下に講演を試み、終つて晚餐を共にし、午後六時から三十二糎反射望遠鏡で月食の觀測を行つたが、數百の來觀者があつて、大に賑つた。當夜は一點の雲もなく、完全に觀測するこゝを得たのは、實に喜ばしい事であつた。

當日の報告に、創立前後の事や、將來の計畫を、次に述べやう。

一. 設 立 の 由 來

本邦には天文に關する學會が二つある。一は明治四十年に東京天文臺内に創立せられた日本天文學會で、今一つは大正九年京都天文臺内に設けられた天文同好會である。大正十年一月岡山縣立社會課の主催で「時博覽會」が催されたとき、京都大學から新城、山本兩博士が天文講演の爲めに來岡されたことがある。

山本博士は天文同好會創立者である。この會は至極民衆的のものであつて、我が國民の天文知識普及に與つて、大に力あるこゝはいふ迄もない。山本博士は岡山の土地が天文臺の位置として、氣象狀況が非常によいから、余に天文臺設置に盡力する様に勧められたのである。余は早速その運動に着手し、新聞に雑誌に講演に全力を盡したが、到底微力の及ぶころではなかつた。

天文同好會に於ては「岡山天文臺」を標語として突進し、機關雜誌「天界」紙上に度々其の必要を力説したのである。

大正十一年九月には山本博士が在外研究員を命ぜられ、二ケ年有餘を歐米に過され、天文臺七十七ヶ所を視察して歸朝されたのは、大正十四年三月

であつた。同月余は京都天文臺に、山本博士を訪問したところ、天文同好會支部所在地數十ヶ所に、民衆的天文臺を設けたい。理想的天文臺はその設置費に百餘萬圓を要するが、小天文臺ならば貳萬圓でも、壹萬圓でも或は數千圓でも設けられるから、地方有志者の篤志によつて是非設立したいものである。望遠鏡も屈折の方は高價であるが、反射の方ならば安價で、且つ年々相當のものが一つや二つは賣物に出るから、それを求めたならば割安に出來上るから、天文同好會第一號天文臺を岡山附近に設けたい希望を述べられたので、一層斡旋して居たが、何分先だつものは金である。純學術的のこゝには容易に寄附金が得られない。

大正十四年七月末に岡山で第三回天文講習會を催し、講師には三度び山本博士を迎へ、それが終つて博士が歸洛されたところ、手頃の反射望遠鏡の賣物があることを知られたので、通知を戴き早速博士を訪問して種々打合せをした。そして一方には「天界」紙上にこの反射望遠鏡のこゝが載せられたので、各地の支部では何れもこれを買入れんミ力んだが金のないので、望遠鏡はほしいが仕方がない。岡山支部は大活動を開始して、大正十四年十二月二十八日には、天文臺設立委員に 原 澄治、水内清治、岸本洗太郎、浦上宗衛、森本慶三、宮原 節、余の七名が挙げられ、あらゆる方面に心當りを付け、篤志家に寄附金の相談をしたが、時恰も財界不況の折柄餘裕の金がないので、その人を得られない。大正十四年は過ぎ去つて、大正十五年を迎へ四月には岡山で、天文同好會總會が催され、その前後岡山縣各地で、天文講演會を開くこゝになつて、四月九日には倉敷で、山本博士と余とが演壇に上るこゝになつた。其の日同地の名望家であり、又余の親友である 原澄治氏が、問題の望遠鏡を個人で買入れ、天文同好會に寄附する意志を余に傳へられたので大喜悅、この位嬉しかつたこゝは今迄になかつた。直ちにこの事を山本博士にお知らせしたところ、同博士の喜びは一方でなかつた。望遠鏡は英國に註文せられ、神戸港に到着したのは九月十三日、倉敷へは十月九日に口径三十二糎（十二吋半）焦點距離二百五十糎の大反射望遠鏡が運ばれた。鏡は有名なカルヴァーの作で器械はホーランド會社の製作にかゝるものである。

假觀測室は原氏の好意によつて急いで建てられ、十一月二十一日には創立記念式が舉行せられ、多數知名の士が臨席され、本邦最初の私設天文臺が出来上つたのである。天文臺長は山本一清博士、名譽臺長は原澄治氏、臺員は理學士原節氏中村要氏、余は主事を囑託されたのである。

二、民衆天文臺の特色

余は去る大正四年十二月三十日の夜分東京天文臺に行つて、望遠鏡で星を觀測することを願つたが、紹介者なしに行つた爲め許されない、そこで日本天文學會の會員で、岡山から遙々來たものであるから更に願つたが、遂に門前拂ひにされたのは實に残念であつた。

東京天文臺で失敗したので、水澤緯度觀測所を觀せて貰はんものと、翌大正五年一月一日水戸で所長木村博士宛の書面を發送して置いて、一月三日觀測所の門を這入つたところ、一人の紳士が居られたので、名刺を出して所長に面會をもめたところ、その紳士が即ち所長木村博士であつた。木村博士の申されるのには書面を受領した、今汽車がついたから、多分君が来るであらうと思つて、此處で待つて居たのであると、これには實に恐縮したのである。それから所内を觀せて頂いて、その御厚意を深謝して歸途についた。その際所員の他の方には何誰にも御目に懸らなかつたのであるが、あそこで聞けば、その時分山本博士は所員の一人であられたこの事である。この水澤緯度觀測所は一般の參觀を許して居ない。京都天文臺に於ては、毎週月曜日の夜分一百人を限り參觀を許して居る。神戸海洋氣象臺では土曜日の午後でなくては參觀を許されない。夜分は駄目だから、二十五糎の屈折望遠鏡に覗かせて貰へない。

上の様な事情で官立の天文臺又はこれに類したところでは、都合よく參觀するごいふことは出來ずに制限が置かれてある。

民衆天文臺たる倉敷天文臺では、何時でも參觀者を歡迎して居る。望遠鏡の大きさを比較すると、東京天文臺は八吋屈折望遠鏡を最大なるものと、神戸海洋氣象臺には十吋のものがある。昨年京都天文臺に十二吋のものが据付けられた。外國には四十吋のものがある。反射望遠鏡の方では、京都天文臺に十吋のものが、大正九年に買入れられ、その後十三吋のものが備

付けられたが、十三吋の方は一般の者は觀せて貰へない。山本博士個人持の十八吋があるが、これは未だ据付けられて居ない。さすれば倉敷天文臺のものは十二吋半の反射望遠鏡であるから、一般の人々が觀測し得る日本第一の望遠鏡である。外國には百吋七十三吋、六十吋といふ様な大反射望遠鏡があつて、現に二百五十吋のものを製作中である。こ二十吋以上のものでなくては、世界各地のものに比較して十分の働きが出来ない。我が國の望遠鏡には世界的のものは一つもないが、幸ひに熱心な天文學者が多いので、外國の天文臺に對して、ひけをもらない。

殊に水澤の緯度觀測所は、伊國、米國のものに共同動作をなし、且つ他國の觀測報告を受け、世界の緯度觀測所を統括して居ることは、我が國の誇りとするところ、木村博士の勞を多とするものである。斯くの如くであるから、一般に天文知識を普及すには、各地に民衆天文臺を設けて之れを開放し、隨時觀覽せしめねばならない。

三、事 業

倉敷天文臺は民衆を相手にするものであるが、決して専門的の觀測を怠るものではない。大正十五年十一月から、臺長山本一清博士は經緯儀によつて、天文臺の精密な經緯度を次の様に發表された。東經 8 時 55 分 5.2 秒、北緯 34 度 35 分 33 秒。昭和二年六月二十九日の日食の際には、天文同好會員奥田毅氏が、初虧、食甚、復圓の時刻を觀測された。同年十一月十日には水星の太陽面經過を觀測し、その前後に亘り創立第一周年記念の爲め、講演、天文展覽會、宇宙の驚異の活動寫眞が公開された。同年十二月十五日には金星が六等星ボン目錄南緯第 3735 號といふ星を掩蔽するので、わざわざ山本博士は觀測の爲め出張されたが、極大切なときに雲があつて、觀測が行はれなかつたのは、實に遺憾であつた。昭和三年四月には京都、姫路、高松、金星（和歌山縣有田郡）に倉敷まで流星の共同觀測をするので中村要氏が出張された。同年八月十日の火星の掩蔽の際には山本博士が出張され、十一月二十七日の月食の際にも同様であつた。天候の如何によつては京都では觀測出来なくとも、倉敷では觀測し得るところがある。故に京都でも、倉敷でも觀測する必要がある。無論東京でも、神戸でも、

水澤でも、出来る丈け多くの土地で観測せねばならない。

毎月第一と第三の土曜日には夜分、天文講演會を催し、あこで天體を觀測することに定めてある。大正十五年十二月から、昭和二年十二月迄に講演會を開いたこ二十四回、講師は山本博士、宮原理學士、奥田毅氏、水野主事等で水野主事は連續講演毎月の天を平易に一般の人々に説いた。昭和三年一月から十一月迄に十八回。講師は前年と大差なく、宮原理學士は在外研究員として渡英されたので、中村要氏に講演して戴いたこがあった。水野主事は「太陽系」について連續講演中である。

何時でも觀測されるのに差支へないが、臺員が詰切つて居ないから、十分のこは出来ない。特に觀測の便宜を御希望の方は前以て御一報下さるならば、當日臺員が出て御相談に喜んで應ずるのである。

參觀人は春秋の氣候のよい時が多く夏冬は少い。昨昭和二年一月には六十一人、二月九十八人、三月四百四十人、四月一千二百五十九人、五月一千五十六人、六月四百三人、七月五十七人、八月七十三人、九月二百九人、十月四百四十八人、十一月六百五十人、十二月百六十人、合計四千九百十四人。毎月二回の公開日、その他臨時公開日の參觀人は前記以外であるから、昭和二年中の總計はは六千人にのほつてゐたこはたしかである。この様な多數の參觀人を迎へて居るこころは、世界でも珍らしいであらう。無理に星を覗かずとも、反射望遠鏡を一見する丈けでも、その効はあるのである。平日は小川龍五郎氏が案内役を務めて居られるが、時には倉敷商業學校佐々木教諭が説明の勞を執るゝ事もある。身も心も打ち込んで倉敷天文臺の紹介、宣傳に努力されつゝある小川氏の勞は實に多大なものである。

四、將來の計畫

倉敷天文臺は京都天文臺の出張所の様なもの、相互に助けあつて觀測に従事して居る。抑々天文臺は一つ所に集まつて居ては、その能率を十分に擧げるこは六ヶ敷い、各地に散在し、連絡をこつてこそ初めて、大いに能力を發揮するものであつて、世界的事業であるから、歐米にのみ大天文

臺が密集して居るのは、餘り感心が出来なく、經度の關係上東洋方面に大天文臺が大に必要なのである。又緯度を異にし赤道附近にも、南半球にも、北半球にもさいふ様に東西に、南北に散在し相互に連繋して始めて世界文化の爲めに貢獻するものである。

倉敷天文臺に於ては、將來臺員が詰切つて日々觀測したいと思つて居る。今日では經費の關係上甚だ遺憾ながら、毎月定期に二回こ、何か天文學上に事件がある時のみ觀測して居るのである。昭和二年六月二十七日ウキンネツ彗星か、地球に最も接近した日の如き五、六百人の參觀人が押しかけて來た時は、臺員は汗だくになつて、多くの參觀人に満足と與へる様に努力したのである。天文臺には十二吋半の反射望遠鏡の外に、名譽臺長原澄治氏の三吋望遠鏡をも用ひて居る外に、時こしては天文同好會岡山支部の三吋望遠鏡をも用ひ、又倉敷小學校の二吋半の望遠鏡をも用ひるのである。

尙官公立の大天文臺が臺灣こ、委任統治地の南洋こに設立され、小天文臺を第一期計畫こして大學所在地に、第二期計畫こして高等學校所在地に設けて、東西南北各地に散在せしめ、大に世界各國の天文臺こ共に活動するこを切望するものである。

昨年ハーヴァード大學天文臺で變光星の觀測所を、米國アリゾナ州ミイタ利こ我が國こに設け度いから、本邦に於ける位置の選定方を山本博士に依頼して來たので、博士は倉敷を指定されたので、近き將來に於て同出張所こ倉敷天文臺こは連合して、世界の變光星研究上に一新紀元を開き度いのである。

終りに天文臺附屬の天文參考館を設け、天文に關する古來の圖書、雜誌類、天球儀、諸器械の標本等を陳列して、天文臺で望遠鏡に覗くこ同時に參考館を一覽して、天文知識を得るこは有意義のここ、思考するのである。而して小、中學生、女學生、その他一般の人々に普及せしむるこは、比較的天界に無頓着な邦人には更に必要なここ、信するのである。

此の機會に篤志者の後援及び聲援を願ひ、基本金を得て年々の經費に苦しむここなく純學術の爲めに進みたいのである。（昭和三年十一月三十日）